

# 戰時國民幼稚園

（一）子等と共に萬歳をさげさぶ

## 倉橋惣三

明治天皇御製

ものをだにまだいはぬ子も萬代さよばへばやがて手をあげにけり

畏れ多い申しやうではあるが、御製のまゝの場面は、大詔渙發の十二月八日以来、皇國到る處に日々に見る實景である。實に、八日その日の朝からの實景である。ものまだいはぬ子等さへさうである。既に幼稚園に來てゐる幼児等に於ておや、高々三兩手を擧げるばかりでなく、萬歳々々々、聲高らかにさげびつゞけるのである。

この大戦争は決心せられてゐた。必勝完遂も確信せられてゐた。しかし、この戦果の何んたる輝かしさぞ。この進撃の何んたる速かなことぞ。この大勝の何んたる逞しいことぞ。何んたる連勝ぞ。何んたる席卷ぞ。今更に、大稜威の宏大に感激し、皇軍の勇武に感嘆し、たゞ々々喜び胸に充ち、涙眼に浮びて、萬歳々々々のみ、手を擧げて相よばふばかりである。

長期決心の覺悟の前に、緒戦の勝利に誇つてならぬことは充分自戒してゐる。しかし、覺悟は覺悟、喜悅は喜悅であることを妨げまい。喜悅さいふは足りぬ。感激であり感嘆であり、合せて込みあげる感謝である。さげばすしてゐられやうか。幼児等も和唱せよ。手を擧げて聲のかぎりよばへよ。その貴い幼時に、この絶大の光輝に遇ひ得る幸福を以て。この大勝が如何に大きな意義をもつものであるかは測り知り難い。しかも、それが、われ等の幼き子等の純な心に及ぼす影響、その無垢な記憶に残る効果だけから言つても、その意義實に深いものがある。幼き子等は、大稜威の宏大をまのあたりに仰ぎ見つゝ育つのである。皇國の實力の偉大さを幼心に實證せられつゝ育つのである。小さいながらに、み民われ生けるしるしあることを感じつゝ育つのである。我等は、この大きな國民的喜悅を、次から次へに、幼き子等に告げ聞かせ得る國民教育者としての至幸を、何んさ言ひあらはしてよからう。

大東亞戦争下、職域を幼稚園に與へられてゐるものとして、抑へ難い心のありのまま、先づこの至幸である。萬歳をさげばう。子等と共に。子等をして、手を擧げて、萬歳をさげせやう。我等と共に。